

群馬県立精神医療センターだより

No.5 平成27年5月 発行

群馬方式・群馬モデルとは？

医療局長 芦名 孝一



精神科医療・保健関係者の一部に、精神科救急を中心とした精神科医療モデルとして「群馬方式・群馬モデル」という言葉が使われます。何となく使われる用語で明確な定義はありませんが、当センターは「群馬方式・群馬モデル」と呼ばれるものの中で少なからぬ役割を果たしていると考えられます。そこで当院の紹介もかねて「群馬方式・群馬モデル」の定義を考えてみます。

話の背景に、精神疾患のために自他を傷つける心配がある場合に、本人の意思に反して入院させられるという精神科医療の特徴があります。その上で、日本国内の精神科病床数は外国と比べて多く、患者さんの入院期間も長めであり、社会的治安のために長く入院させているとの批判もあります。

当センターは20年来、群馬県の精神科救急の中核として精神疾患のために自他を傷つける心配がある患者さんの受け入れと治療にあたってきました。救急入院の際に本人の治療よりも社会的治安が優先されれば、本人はただ閉じ込められているだけで、治療意欲も失い病気も良くなり、結局は社会全体の損失となります。そうならないために当センターでは、本人の治療を最優先することで、ついには社会的治安を達成することを目指しました。その取り組みが「群馬方式」と呼ばれるものです。

この「群馬方式」を実践するためには、県の精神科救急情報センターや、行政、司法その他の関係機関とのしっかりとした役割分担が必要となります。このような当院と他の様々な機関の方々との日常的な連携が「群馬システム」となります。要するに、精神科医療の場で、患者さんの治療を最優先することが「群馬方式・群馬モデル」の中身となります。



当センターのホームページにて毎週ブログ「つれづれ便り」を更新しています。是非ご覧下さい。

URL:http://www.gunma-seishin.jp/07_blog/blog_index.html

基本理念

1. 患者・家族そして全ての県民のために
2. 良き精神科医療は良き社会をつくる
3. こころの時代を支える精神科医療

運営方針

1. 人間の尊厳を尊重し人権に配慮した医療
2. 都道府県立精神科病院の設置義務に基づいた政策医療
3. 客観性と透明性と説明責任を重視した医療
4. 適切な医療技術による良質で安全な医療の提供
5. 社会復帰と社会参加を目指した医療
6. 多職種チーム医療の徹底
7. 障害者にやさしい地域ネットワークづくり

リハビリ病棟群のご紹介

当センターでは、精神科救急からリハビリ、そして地域移行、地域定着と一貫した精神科治療を展開しています。この一連の治療の流れを大きく『精神科救急病棟群』、『リハビリ病棟群』の病棟群に機能分化して運営しています。今回はリハビリ病棟群について紹介します。

特徴的な取り組みとして、次のようなことを行っています。

地域移行推進室

平成20年4月から「地域移行推進室」を設置しリハビリ病棟群から地域移行への推進を図っています。現在、5年以上の長期入院の方は、全入院者の10%以下です。

知って得するコーナー

病棟患者さん全員を対象に、医師をはじめとした多職種による疾病プログラムを行っています。「多飲水」、「統合失調症」、「人気メニューの秘密」、「歯と口の話」、「生活リズム」、「大変なこともあるけれどやっぱり地域生活っていいな」など患者さんにとっての身近なテーマを取り上げています。

ピアサポーターの導入

自らの精神障害や精神疾患の経験を生かしピア（仲間）として支え合う活動をする人たち（ピアサポーター）とのおしゃべり会を開いています。精神障害を持ちながらも地域で生活しているピアサポーターは当事者にとって、希望となり、仲間として気持ちが分かり合える良き理解者となっています。仲間の体験談をきっかけに退院し、ピアサポーターとして活躍していく人もいます。



とびっくす

電子カルテを導入しました。

全国の精神科病院の中で電子カルテ導入率は8.4%です。(23年厚生労働省医療施設調査)

3月2日から、患者サービスの向上を図るため、当センターに電子カルテが導入されました。新システム導入により利便性が高まりましたが、患者様との顔と顔のみえる医療的対話がおざなりにならないよう、職員全員で気を引き締めていきたいと思っております。

栄養調理課

栄養調理課は、患者様を栄養面からサポートしています。スタッフは管理栄養士3名、調理師14名、調理補助3名の総勢20名が365日ローテーション勤務。「おいしくて安心安全な給食の提供」を合い言葉に、直営方式で運営しています。入院生活が少しでも楽しくなるよう、毎月の四季折々御膳や各種行事食、お誕生日にはバースデーカードを添えたデコレーションマドレーヌなど、手作り・できたてのおいしさを患者様にお届けしています。



【四季折々膳】



【味噌ラーメン】



【お誕生日マドレーヌ】

栄養調理課では、日常業務だけでなく県立病院総合研究にも積極的に応募し、研究費を活用して先駆的な課題にも取り組んでいます。

- 21年度 真空調理法の活用拡大と充実
- 22年度 アイドルタイム活用による製パンの試み
- 24年度 オリジナル食育グッズの企画・製作と活用方法の検討
- 26年度 健康・災害弱者のための非常食

～オーダーメイドの備蓄食料とローリングストック法の検討～



【レトルト粥】

特に、26年度には備蓄食料として4種類のレトルト粥を開発し商品化に成功。ぐんま地場産業フェスタ2015inTOKYOやメディケアフーズ展2015にも出品しました。

また、嚥下困難な患者様向けに「やわらか食」を手作りして備蓄できるように、凍結含浸食の研究をしました。

「食べることは生きること」「おいしいことは幸せなこと」これからも患者様のため、課員一同、好奇心いっぱい、おいしさを追求していききたいと思います。



診察予約について

初診の方は予約制になっています。事前にお電話での予約をお願いします。

- ・受付窓口 地域医療連携室（医療福祉課） 電話0270-62-3311(代)
- ・受付時間 月～金（土日祝日・年末年始を除く） 8：30～17：15

●受診の際にスムーズな治療が行えるように次のことをご尋ねします。

- ・相談者について
お名前、対象者との関係、連絡先（電話番号）
- ・対象者（患者様）について
お名前、性別、生年月日、住所、精神科受診歴、現在の症状、身体合併症の有無
- ・入院希望の場合
患者様本人及びご家族の意向など

●他の医療機関を受診中の方は、紹介状をできるだけお持ちください。

■外来診療 月～金（土日祝日・年末年始を除く） 受付8：30～11：00

外 来 担 当 医 （平成27年5月1日現在）

	再 来	初 診
月	須藤・両角	森岡・武井・赤田
火	武井・赤田・盛林	原田(耕)・原田(明)・三田
水	大森・神谷・森岡	高橋・今井・芦名
木	大森・原田(明)・原田(耕)・今井・高橋	両角・盛林・赤田・芦名
金	赤田・芦名・三田・松岡	大森・神谷・須藤



群馬県立精神医療センター

〒379-2221 伊勢崎市国定町2丁目2374
 TEL 0270-62-3311
 FAX 0270-62-0088
 URL <http://www.gunma-seishin.jp>

- JR国定駅から徒歩10分
- 上武国道（国道17号）三和町交差点から車で5分
- 北関東自動車道伊勢崎ICから車で5分